

# 答 辞

令和3年3月18日  
和洋女子大学  
人文学部 日本文学文化学類4年  
卒業生代表

冬の寒さも和らぎ、ようやくあたたかな春の日差しが感じられる季節となりました。

今日、私たちは、和洋女子大学での四年間の学びの時を終え、卒業いたします。このよき日に、私たち卒業生のために、このような式典を設けていただいたことを、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

卒業を迎えるにあたり、4年前の入学式の日が懐かしく思い出されます。大学生生活に緊張や不安を覚えつつも、それ以上に、希望に満ちた始まりでした。

1年次には、新たな仲間や未知の学問への出会いに胸を躍らせました。初めのうちは、慣れない環境に戸惑いながらも、自分が関心をもつ分野を学ぶことに、大きな期待を抱きました。2年次になると、専門科目や資格課程の授業が増え、課外活動も本格化して、多忙な日々を送りました。その中で、「自分が何をやりたいのか」を主体的に考え、積極的にものごとに参加していくことを学びました。

3年次から4年次には、様々な資格課程での実習を通して、自分の学びが社会にどのように関わるのかを考えさせられました。そして、4年間の学びの集大成となる卒業制作では、就職活動との両立や、変則的な予定への対応を迫られ、毎日が目まぐるしく過ぎました。その中でも、先生方に見守られ、仲間たちと支え合いながら、充実した学生生活を送ることができ、大きな喜びを感じています。

私たち一人ひとりに向き合い、導いてくださった先生方、共に学び、励まし合った学友たち、学生生活を支援してくださった職員の皆様、そして毎日を温かく見守り続けてくれた家族に、私たちは支えられ今日を迎えました。和洋女子大学で豊かな4年間を送ることができたのは、皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

この一年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な苦難がありました。その結果、社会そのものが大きな変化を強いられました。このような変化が、これで終わりになるとは限りません。今日から、日々刻々と変化し続ける社会の荒波の中に、私たちは旅立ちます。

しかし、その「社会」をつくり上げているのもまた、私たち一人ひとりです。ただ変化に順応するだけでなく、望ましい社会のあり方を考え、変化の流れを生かすことで、理想の実現へと繋がるうねりを起こしてゆきたいと思います。私たちはそのための力を、和洋女子大学で過ごした四年間の中で、培ってきました。ここで得た力を支えに、これからも歩み続けていきます。どうか今後とも、私たちの行く末を見守り、ご指導賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝と、和洋女子大学の益々のご発展をお祈りし、答辞といたします。